

3年の取り組み

3年 社会科学学習指導案

指導者 T1 担任
T2 栄養教諭

1. 単元名 「すきやねん明石！明石の漁業」
(副題：明石の名物明石だこ)

2. 単元の目標

- ・明石で水揚げされた水産物が学校給食や地域、家庭で消費されていることがわかる。
- ・自分たちの生活とのかかわりや、仕事の苦労や工夫、喜びを知り、漁業に携わる仕事や漁師さんの生活についてもっと知りたいという気持ちをもつ。
- ・漁師さんへのビデオインタビュー、資料の読み取りをして自分の課題を調べることができる。

3. 単元設定の理由

本学級の児童は、明るく活動的である。しかし、自分たちで何かをしようとして話し合ったり、内容をお互いで高めようとする経験に乏しい。そのため、「なぜ～なのだろうか」というように考えたり、話し合ったりする活動を通して自分たちで高め合う活動を取り入れたいと考えた。

一学期の社会科学の学習を進める中で、松が丘の地図づくりを通して土地の利用に児童は気付くことができた。松が丘小学校区はほとんどが住宅地である。そして、住宅地や緑地、商業地、ビニルハウスがある農地がある。ほとんどの児童は地域を色分けすることにより、わかりやすく自分たちの地域を見る視点を学習した。ただ、自分で作った松が丘の地図をお互いに見せ合う活動を通して高め合う活動を設定したが、自分の地図への思いが強く、一学期の地図を見せ合う活動では高まっているような様子があまり見られなかった。二学期は範囲を明石市内に広げ、常に高め合う活動を設定して、各自が興味を持って社会科見学を行っていく予定である。そのために、夏休みの課題として明石の名物新聞に取り組み課題を出して、明石だこや明石に関する名物について自分で調べ学習を進めさせてきた。この学習を通して、働く人の工夫や他地域とのつながり（販売）にも気付かせていきたい。

今回の単元についてまず、児童の興味関心を高めるために地域の食材の利用（明石だこ）を考え、夏期休業を利用して明石の名物新聞づくりに取り組ませた。地域への関わりを深めるために、教材の選択として給食にも利用されている明石だこに注目させることにした。給食における食材の提供においては、①地産地消（明石でとれる）②安全安心（とれたて）③新鮮な素材（おいしい）の考え方が基本となっている。①地産地消については「地域で生産された食材を地域で消費する」ことである。明石海峡の激しい海流を通して育まれた「明石だこ」は「他の地域のたこ」とは歯ごたえが違うなど優れた品質を保っている。②安全安心については、どの漁港から水揚げされてどのように調理されているのかがわかること。③新鮮な素材とは、地元であるため「昼網」によって競

り落とされた「明石だこ」がそのまま塩もみをされ、ゆでられ店頭に並んでいることである。一方、干しだこ体験には、明石市東二見在住の神代さんにゲストティーチャーをお願いした。児童は目の前が明石海峡の豊かな海が広がっているが、あまり生きただこは見たことがない。生きただこは児童の手からみつくであろうし、その動きについても強い印象を与えるであろう。その生きているだこが味わい深い「干しだこ」になる過程を児童が体験できるようにした。生きた新鮮なたこしか「干しだこ」にできないことが明石の名物になっている理由である。

次に、明石の漁業に注目させる。明石市内の主な漁港の場所や位置の確認の後、社会科学副読本やインタビュー形式のビデオを利用しながら、漁師さんやその家族の苦労や思い、願いに着目させる。朝早くから用意をして漁に出て行く漁師の仕事は毎回同じものがとれるとは限らない。一定の収穫が保証されているものではない。天候の状況により豊漁と不漁の差が激しい。たとえば、東二見漁協より提供された「たこの収穫についてのデータ」をグラフにしてみると一昨年は豊漁であったが昨年は不漁であったことがわかる。幸い今年は豊漁であるという。また、自然相手の生活の中で一定の収入を得るために「のり」の生産に力を入れている様子についても触れたい。

最後に、お世話になった神代さんや生活の実態を語ってくれた漁師さんにお礼の手紙を書く活動を通して、自分たちの食生活の一部が明石に住む人々によって支えられていることを実感させたい。

本単元終了後、調べ学習の「型」を学んだ児童は他の明石の名物についてさらに調べ活動を「松っ子タイム」を利用して進めていくようにしたい。明石の名物についてさらに調べ活動を進め、豊かな漁場を持ち、キャベツ、イチゴなどの農産物の生産もさかんな明石のことが大好きになり、愛着を持ってほしいと強く願っている。

本時は、児童が明石のたこは強い明石海峡の流れで鍛えられ、歯ごたえが強く、何度も噛むと旨味がよくでる特徴があることを食べてみて実感する場面である。「明石だこ」は学校給食だけでなく、地域、家庭でも食べられていることがわかり、すぐ近くの明石海峡で水揚げされた「たこ」を新鮮なまま買うことができることから、地域社会のよさに気付かせたい。

4. 単元計画（全9時間）

- | | | |
|----|------------------------------|--------------|
| 一次 | 明石の名物を知ろう | … 4時間（本時4/4） |
| | ・夏休みに調べてきたことを発表し合う | |
| | ・干しだこ体験をする（GT：神代さん） | |
| | ・給食でも明石産のたこが使われていることを教えてもらおう | |
| 二次 | 明石の漁業について調べてみよう | … 3時間 |
| | ・明石だこについて詳しく調べる | |
| | ・明石の漁業について調べてみよう | |
| | ・漁師さんの暮らしについて調べてみよう | |
| 三次 | 明石の漁業についてまとめよう | … 2時間 |

学習活動

時	ねらい	学習活動	資料
1	○明石市にいろいろな名物があることを知る。	○明石の名物について知っていることを発表しあう。	
2	○明石産のたこそれ以外のたこを比較することで明石たこに人気があることをとらえる。	○明石産のたこそれ以外のたこを食べてを比較し、違いについて考える。 ○給食で明石産のたこが使われていることを知り栄養教諭の吉賀先生の話聞く。 ○明石たこの人気のひみつについて分かったことを書く。	○明石だこ ○干したたこ ○たこの出ていた給食の献立
3 ・ 4	○干したこを作ってみる。神代さんの協力により、干したこ体験をする。 ○神代さんの話を聞き、自分の課題を解決したり、干したこ加工場についてさらに調べていく意欲を高める。	○明石のたこを使って干したこ作りに挑戦し、干したこづくりの大変さや苦労を実感する。 ○ビニルシートを下にひくなど、衛生面にとっても気をつけていることもふまえる。	
5	○干したこ作りの大まかな行程や働いている人たちの様子をつかみ、干したこやその他の生産品を調べることを通してどうして明石たこおいしいのかを予想する。 ○明石だこについて疑問に思うことやくわしく調べたいことを書き、学習していく意欲を高める。	○明石だこが人気があることを伝える。 ○明石のたこはどうしておいしいのかを予想する。 ・たこの生態 【明石だこは】 : どんなどころにすんでいるのだろう : どんな特徴があるのだろう : なにを食べているのだろう : たこの寿命はどれくらいか : 旬はいつか? ・たこを捕る人(漁師さん) (たこの流通)	

【学習問題】 どうして明石たこはおいしいのだろう。

6	○明石市の漁港の位置と場所を確認する。どうして明石たこはおいしいのかをさらにくわしく予想する。	○たこの生態について調べてきたことを発表する。 ○たこの漁獲量のグラフを見ながら毎年どれくらい漁獲量があるのかを知る。(旬) ・たりないところは神代さんのビデオと教師の言葉で補う。 ○明石の漁港の位置と場所の確認をする。 ○たこを捕る人を押さえる。(漁師さん) ・漁師さんはどこに住んでいるか。 ・漁師さんの数は。 ○漁師さんの仕事を予想する。 漁師さんの生活を予想する。(苦労・工夫・思い・願い) ・漁師になろうと思ったきっかけ ・何時頃におきるか。 ・漁師をしてうれしいこと ・漁師をしていて苦労していること ・願い ・思い	○前時に児童が書いた「知りたいと思うこと」の一覧 ○社会科副読本「りようしさんのしごと」P 43 ○漁獲量のグラフ
7	○明石たこ加工で働く人たちがどんな願いを込めて、たこ加工品作りに取り組んでいるのかをつかみ、働く人たちの思いや努力にふれる。	○働いている人が、安全なたこの加工品を作るためにどんなことに気をつけているのかを考える。 ○働いているの方の話を聞き、安全でおいしいたこ加工品を作るための工夫を知る。	○社会科副読本の地図 ○副読本の写真「つくり育てる漁業へ」P 45 ○働いている方撮影したビデオ
8 ・ 9 ・ 10	○小単元を通して、どのようなことを学び、どのように自分の考えが変わったのかを振り返り、文章にまとめる。 ○お世話になった人へお礼の手紙を書く。		

※10/12 たこ飯作りをする。

5. 本時の学習

(1) 日時 平成19年9月14日(金) (3年3組教室)

(2) 目標

- ・明石で水揚げされた水産物「明石だこ」を学校の給食や地域、家庭で消費されていることがわかる。
- ・「明石だこ」に興味を持ち、自分たちの生活との関わりや地域社会のよさに気付く。

(3) 展開

児童の活動	指導上の留意点	準備物・資料
1. 明石だこについて学習することを知らせる。	・干しだこ体験をふりかえる。	干しだこ
2. なぜ明石だこを給食で使っているのかを予想する	・他にだこの食べ方はないのかを聞く。	だこの献立
3. 給食で明石産のだこが使われていること理由を知る。	・明石だこがどのような献立だったかを確認させる。 ・給食で明石のだこが使われていることを知らせ、なぜ明石のだこを入れているのかを予想させる。	
4. 明石だこを試食し、さらに興味を持つ。	・給食で大切なこと①明石でとれる②とれたて③おいしさについてふれる。	明石産だこ
5. 明石だこについて分かったことを書く。	・明石だこを食べてみることで明石だこを実感させる。	感想カード
	・「明石だこ」についてわかったことを書かせる。	
	・次回の学習について見通しを話す。	

(4) 評価の観点

- ・地域社会のよさに気づくことができたか。
- ・「明石だこ」に興味をもち、もっと知りたいという気持ちをもてたか。

すきやねん 明石!

名前()

★なぜ明石のたこを給食で使っているのかな?

よそう

★明石のたこの3つのひみつ!

①
②
③



★明石のたこについて、わかったことや思ったことを書きましょう。

すきやねん 明石!

名前()

★なぜ明石のたこを給食で使っているのかな?

よそう 明石のたこが名物だから

★明石のたこの3つのひみつ!

① 明石でとれる
② とれたて
③ おいしい



★明石のたこについて、わかったことや思ったことを書きましょう。

明石のたこは足がしっかりして、はごたえがいい。かんだ後でも味がのこる。

すきやねん 明石!

名前()

★なぜ明石のたこを給食で使っているのかな?

よそう
明石のめい物でゆうめい
でおいしいから。

★明石のたこの3つのひみつ!

① 明石でとれる
② とれたて
③ おいしい



★明石のたこについて、わかったことや思ったことを書きましょう。

明石のたこはこりこりしていて、すごくおいしいのであじがないと思っては、あとからあじがでてきました。

すきやねん 明石!

名前()

★なぜ明石のたこを給食で使っているのかな?

よそう
明石のたこはおいしい、明石の名物だから。

★明石のたこの3つのひみつ!

① 明石でとれる
② とれたて
③ おいしい



★明石のたこについて、わかったことや思ったことを書きましょう。

明石のたこはしおをまぶしてゆでたらつるつるになる。明石のたこはえさをいっぱい食べているから、おいしいあじがでる。

好きやねん明石 どうして明石たこがおいしいのかな しらべてみよう!

3年 3組

9月20日の社会でこんなことがきもんとしたのこりました。あなたのまわりのひとに聞いてしらべてみよう。

明石たこはどこにすんでいるのかな?

大くし海がしんこ

明石たこにはどんな体のとくちようがあるのかな?

たぐんのおんそかひつようエラのねもよしははは
ヒロボアがある。

明石たこは何を食べているのだろうか?

カニやエビ、貝など

明石たこのじゅめいはどれくらいかな?

マダコ... 1.5年イタマ/尾マダコ... 4年

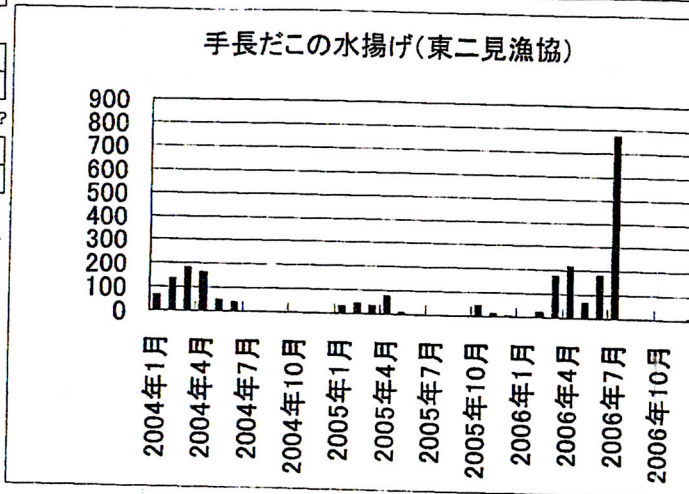
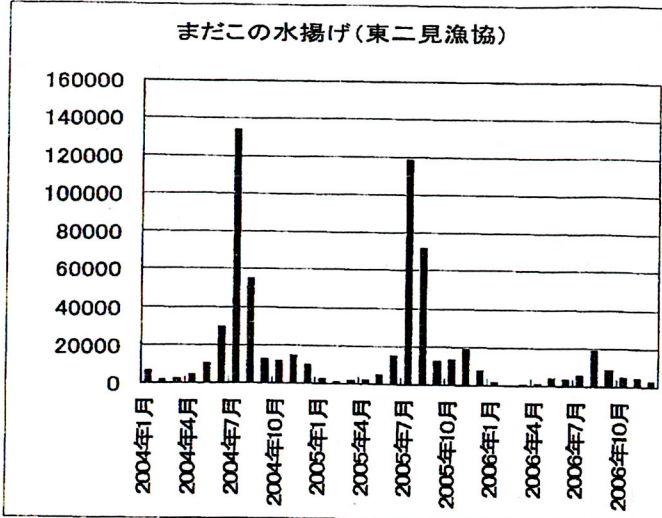
明石たこのしゅんはいつかな?

かんどうでは正月にたこを食べるが、かいて
は半生(食から11日目)マダコを食べる。

明石たこをとるひと「しょうしん」はたこをとるときどんな工夫をしているのだろうか?

「しょうしん」はマダコを海にしずめタコを入れるの
が

あなたが聞いた人... おとうさん... しらべた本... インターネット



【 たこ干し体験 】

ゲストティチャーの方を招いて、たこ干し体験をしました。生きたたこを、見たりさわったりするのが初めて子どもたちがほとんどで、大喜びでした。



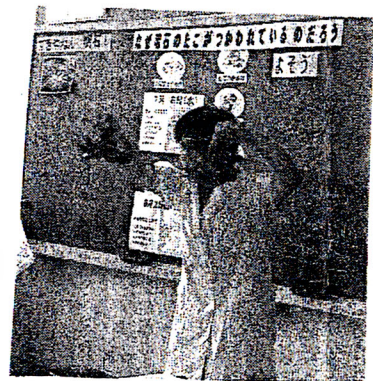
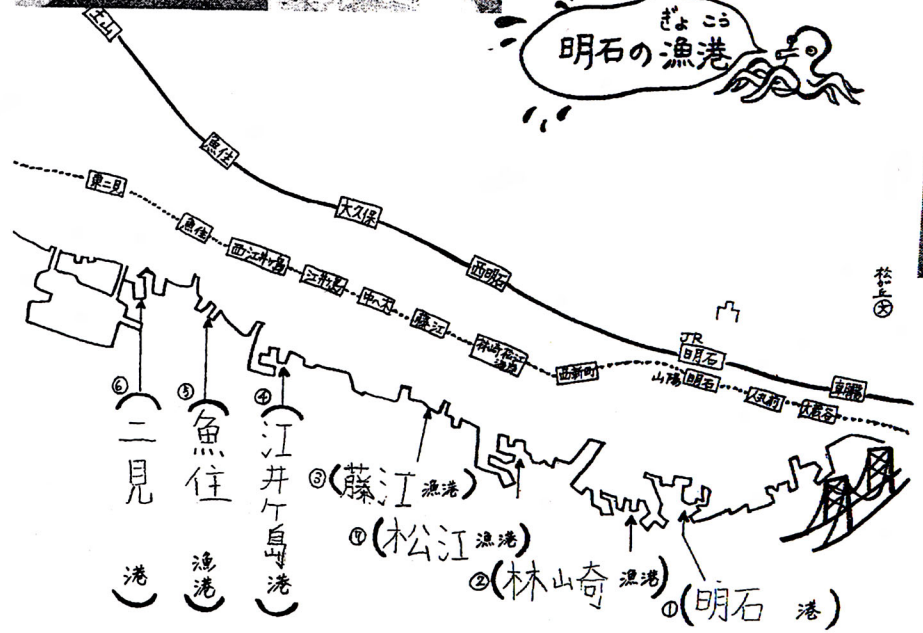
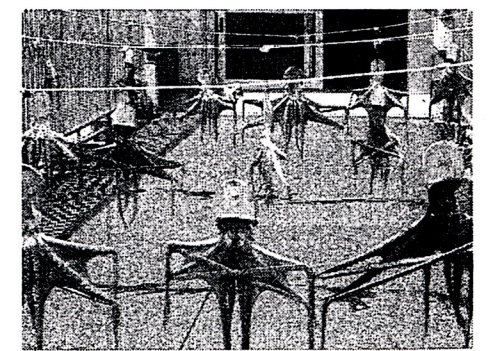
たこをさわるのは、初めてでした。たこがバケツからはい出てきて、外に出てきたのでびっくりしました。たこをさわってみると、ぬるっとしていました。きゅうばんをさわるときは、ドキドキしました。手にくっついてきました。頭の所をひっくりかえすと、たまごがありました。ひっくりかえすのは、むずかしかったです。



すみが入っているのをさわったら、すみが出てきてびっくりしました。一番むずかしかったのは、長いぼうをさした所です。わたしは、たこをよくたこやきにして食べます。でも、ほしだこなんかしたことはないの、とてもいいけいけんになりました。



昨日ほしたばかりなのに、カピカピになりました。明石のたこは、歯ざわりがよくこりこりしているのとてもおいしいです。ぼくは、ほしだこを食べるのが、はじめてなので、食べるのがとても楽しみです。早く食べたいです。



事後研究会

【授業者の感想・反省】

- たこを取り扱う内容を、総合的な学習の時間ではなくて、社会科で取り入れることによって、明石への愛着を持って欲しかった。いつもなら、挙手したことのない子どもたちが、手を挙げてくれてうれしかった。
- 栄養教諭とのTTにより、給食の献立から明石だこについての学習を深め、明石海峡の強い潮の流れをもった豊かな漁場について考え、おいしさの秘密を知ることができた。
- 明石の名物「たこ」を社会の授業で取り入れるにはどうすればよいかと、夏休み後半から話し合ってきたが、ゲストティチャーの神代さんにも協力してもらい、学習計画を組み立てていった。

【参観者より】

- 社会科の中で食育を取り入れていくのは難しいなと思った。どうやって、取り入れていったらよいのかを考えていく提案生のある授業であった。
- 普段教科以外で食育に取り組んでいたのが画期的であった。これから検討していく課題として価値あるのではないか。
- 3年生の社会科の学習で、漁業を9時間もとれるのか。松っ子の時間等利用すればよい。
- 明石だこを一つ扱うことで、流通や漁業・海的环境に広めていくことができる。
- 「たこ」という素材を扱うのはいいと思う。子どもたちが、「たこ」の体の色が、湯通しすると茶色から赤っぽく変わっていくのを見たことによって、「たこ」のひみつについて知りたいという気持ちが高まったのではないか。
- 「なぜ、明石のたこが給食で使われているのか。」と予想する段階で、明石のたこがおいしい理由を探していこうとするきっかけとなったと思われる。
- 予想に対する答えを①明石でとれる②とれたて③おいしいというふうにもとめ答えを出さなくても良かった。答えを出してしまうと導入にならない。子どもたちに好きに言わせて、試行錯誤させることが大切なのではないか。そうすることで、学び方が学べるのではないか。調べてみようという意欲を高めることができるのが導入の役割だ。
- 今日の授業のままでいくと、風評で終わる。今後どのような資料を提示することが鍵となる。客観的にわかる資料・ビデオ教材・グラフ・図を提示できれば良かった。
- 「地域社会の良さに気づく」ということで、海流のこと等言ってあげれば良かったのではないか。
- 明石では、たこが有名なので、給食に出ているが、他の地域では違うものが出ていると思う。他地域の給食と比較してみても良かったのではないか。



成果と課題

【成果】

- ・ 3年生はタマネギや茄子、ピーマンを育てた。松っ子の時間を使って野菜の収穫を行い、とれたてを調理室に自分たちで運び、給食の放送で全校生に放送する活動をした。自分たちが育てた野菜が大きくなり、それを収穫して食べることで生命の大切さについて学び、野菜への愛着が育てられていると思われる。
- ・ 食レンジャーとの学習を通して食品には「熱や力のもとになる」「体の調子を整える」「体を作る」ものがあることを学習できた。大学生ボランティアによる劇やクイズなど分かりやすくして親しみの内容で子ども達は楽しく興味深く取り組めた。そして、毎日の給食の時でも、自分が苦手なものでも何とかして食べようとする姿が見られた。
- ・ 明石だこの学習を通して、明石は明石海峡の激しい潮の流れにもまれ、豊富なえさに恵まれて、国内有数のタコの産地になっていることが分かった。また、明石ダコは「明石でとれる、とれたて、おいしい」ことから給食でもタコを多く取り入れて地産地消のメニュー作りをしていることが実感できた。干しだこ作りにもチャレンジしたり、干しだこをタコ飯にしたり、タコの刺身を食べてみたりするなど明石の食を体験することができた。
- ・ 国語科の学習「すがたをかえる大豆」と関連させながら黒豆を育てた。2学期始めに枝にさやが青々となっている様子を見せた。それを乾燥させ、茶色いさやから真っ黒く固い豆が出てきたときは子ども達から驚きの声が上がった。黒豆はもぐもぐ松っ子まつりでポン菓子にしてもらい、黒豆が目の前で固い豆からほんのり甘いお菓子に変身したところを目の当たりにできた。給食の中でも大豆を使った様々なメニューがあることを給食カレンダーを振り返ってみて改めて知ることができ、給食のメニューの中で味噌や醤油、豆腐や油揚げがよく使われていることが分かった。また、大豆を児童の目の前でミキサーによって粉にする活動をした後、できたきな粉を揚げたパンにつけてきな粉パンにして食べた。このことを通して大豆が様々なものにすがたをかえて身の回りにあることが、教科書を読むだけではなく、体験を通して児童に実感させることができたと思われる。

【課題】

- ・ 楽しい活動が続き、「食を楽しむ」ことはできているが、まだまだ食の生産現場での苦勞が児童に実感されているのか疑問である。明石だこの学習において漁師さんの工夫や知恵を知ることができたが、苦勞についてはまだまだ迫れていないと思う。苦勞について迫ることで生命を慈しむと同時に、食に対するありがたみを育ててきたい。
- ・ 教科の学習と関連させて進めようすると、時期的な面で難しいことがあった。例えば「好きやねん明石」の学習では同時期にたこ、のり、魚の棚商店街について学ぶが、たこは最盛期の夏期に、魚の棚商店街見学は秋期に、のりは冬期に活動を設定せざるを得なかった。